

「災害・復興と男女共同参画」シンポジウム開催にあたっての呼びかけ文

東日本大震災から 3 週間が過ぎ、高齢者（中でも高齢女性）や子どもを抱えた母親、病人、障がい者など、避難所で十分なケアを受けられない現状が目立っています。また、阪神淡路大震災、中越地震での女性たちの経験からも、男女共同参画の視点が重要であり、かつ不十分なことが、以前から指摘されてきました。

この指摘を踏まえ、2005 年に防災基本計画の修正が行われ、昨年 12 月に閣議決定された第 3 次男女共同参画基本計画では、第 14 分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」と、第 2 次計画より踏み込んだかたちで記述されています。

しかし、一方で 2008 年に実施され、報告された全国知事会による「女性・地域住民からみた防災施策のあり方に関する調査」の結果、防災時に避難所の備品の整備、健康・医療・プライバシーへの配慮、女性への暴力やセクハラへの対応、こころのケアなどに女性の視点がほとんどありませんでした。つまり、防災計画策定に関わるのは圧倒的に男性が多く、依然として男性の視点で計画が構築されていることが明らかになりました。

このように、度重なる被災経験、その経験を踏まえた防災計画の策定が行われながら、男女共同参画の視点が実行に移されない状況のさなか、東日本大震災という未曾有の大災害に遭遇しています。

そこで、女性の視点の重要性を現地の報告を含め徹底的に分析し、今後女性の参画が増えるようにという思いから、6 月 11 日（土）に「災害・復興と男女共同参画」シンポジウムを開催し、提言をまとめ、政府、自治体、市民団体を始め、全ての国民に男女共同参画の視点の重要性を訴えていきたいと考えています。

つきましては、急遽実行委員会を立ち上げたいので、貴団体においても参画して下さるよう、呼びかけをさせていただいた次第です。